

## IV 質問紙調査の傾向

### 1 学校質問紙

#### (1) 分類区分

- ・総数は小学校が13から3増え16、中学校は14から2増え16となった。小中学校共に「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法」「学習評価」が追加された。さらに、小学校では、「英語の指導方法」が追加された。また、中学校では「英語科の指導方法」が「英語の指導方法」に変更された。

#### (2) 質問数

- ・小学校では、昨年度より11問増え、75問である。新設の質問は、学習評価に関する質問（再掲を含む）3問を含む24問、削除された質問は、13問である。
- ・中学校では、昨年度より5問減り、75問である。新設の質問は、学習評価に関する質問（再掲を含む）3問を含む24問、削除された質問は、29問である。

#### (3) 本年度の特徴

- ・分類区分及び分類区分ごとの質問数が小学校・中学校で統一された（ただし、小学校は「算数科の指導方法」、中学校は「数学科の指導方法」となっている）。
- ・「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」の分類区分では12の質問があり、平成29年度の再掲が6問、新設が3問あった。小中(26)～(37)
- ・「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法」が新設され、小学校・中学校とも4問の質問があった。小中(38)～(41)
- ・「学習評価」の分類区分が新設され、平成29年度の再掲の質問が1問、新設の質問が2問あった。小中(42)～(44)
- ・小学校では「英語の指導方法」という分類区分が新設され、2問の質問があった。中学校では「英語の指導方法」（昨年は「英語科の指導方法」で13問）という分類区分で、2問の質問があった。小中(57)(58)

## 2 児童生徒質問紙

### (1) 分類区分

- ・総数は、小学校が9から2増え、11となった。中学校は昨年度と同じく、11であった。

### (2) 質問数

- ・小学校では、昨年度より13問増え、71問である。新設の質問は、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」についての質問3問を含む27問、削除された質問は、14問である。
- ・中学校では、昨年度より2問増え、71問である。新設の質問は、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」についての質問3問を含む29問、削除された質問は、27問である。

### (3) 本年度の特徴

- ・ICT機器を使用した勉強について、1日当たりの時間を問う質問が新設された。 小中(30)
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について、児童生徒自身の話し合い活動時の取組等を問う質問が新設された。 小中(38)～(40)
- ・小学校では、英語についての質問が新設された。 小(67)～(69)